

氏名（団体名）	功績の概要
坂本 幸正	<p>高知市交通安全指導員として、平成4年4月から令和2年3月までの28年間にわたり、通学路等において園児や児童・生徒等の安全誘導にあたるほか、現在も久重校区交通安全会議会長として、同地域内における交通事故防止のための活動を積極的に行うなど、地域の交通安全推進に貢献しており、地域住民の信頼も厚くその業績は高く評価されています。</p>
山下 文雄	<p>高知市交通安全指導員として、平成14年4月から現在までの20年間にわたり、通学路等において園児や児童・生徒等の安全誘導にあたるほか、高知市交通安全指導員協議会潮江東支部長兼潮江東校区交通安全会議会長としても、同地域内における交通事故防止のための活動を積極的に行うなど、地域の交通安全の推進に貢献しており、地域住民の信頼も厚くその業績は高く評価されています。</p>
土佐市立 蓮池小学校	<p>蓮池小学校は長年、蓮池パトロール隊（登下校見守りボランティア）等と連携し、登下校の安全確保に取り組んでいる。PTA組織の中に交通安全部が設置されており、毎学期はじめの1週間程度は保護者と教員も輪番で街頭指導を行うなど、児童の安全のために組織的な取組を続けている。</p> <p>令和3年4月に、高知県警察から交通安全教育推進モデル校（第1号）の指定を受けたことを契機に4年生が交通安全の学習を始め、校区の危険箇所について実地調査を行い、客観的なデータを収集することで問題点を整理し、具体的な解決策を考えた。その結果を土佐警察署や市役所をはじめ、地域の方々に提案し、一部の改善案は市役所によって実行された。</p> <p>また、啓発PV「交通安全マスター」をYouTubeで発信し、高知県警察関連施設で一般にも公開されている。こうした取組は、「一連の学習プロセスが、児童の主体的な気づきやアイデアに基づいている」と評価され、国際交通安全学会から「交通安全教育マイスタージュニア」として表彰された。</p> <p>児童に対する交通安全教育においては、「止まる・見る・確かめる」「手を挙げて横断歩道を渡る」「（止まってくれた車に）会釈する」を行動様式として全校で取り組み、定着しつつある。</p>
高知県立 須崎総合 高等学校	<p>高知県立須崎総合高等学校は、平成31年4月に高知県立須崎高等学校と高知県立須崎工業高等学校が統合し、設立された学校である。</p> <p>高知県立学校安全総合支援事業（交通安全）の拠点校として、令和2年度から4年度までの3年間にわたり、自転車用ヘルメット着用推進をテーマにした取組や啓発活動を継続して行っている。交通安全推進委員会を中心に自転車通学者のヘルメット着用率を向上させようと、自転車用ヘルメット着用推進週間の設定、のぼり旗作成や交通安全新聞発行、生徒対象の交通安全に係るアンケートの実施及び検証・取組の改善など、高校生の自主的な活動の充実に取り組んでいる。ヘルメット着用率が低い時期には、「ヘルメット着用キャンペーン」として、3人1組でチームを作り、着用ポイントを競い合い、ポイントの多いチームや個人を表彰するなど、生徒が楽しくヘルメットを着用するための工夫した取組を高校生のアイデアで行っている。</p> <p>令和3年度及び4年度には「高知県高校生自転車ヘルメット着用推進シンポジウム」を開催し、県内の高校生同士がヘルメット着用推進に向けて共通理解を図り、連帯意識を培いながらヘルメット着用を推進するためのアイデアを話し合うことを通して、高校生の交通安全の輪が県内に広がるきっかけを作った。</p>